1994年6月20日発行(通巻4号)
発行人　森 眞由美
編集人　山崎 裕一
発行:財団法人 骨髄移植推進財団
〒160 東京都新宿区新宿1-4-8 新宿小川ビル4F
TEL.03-3355-5041　FAX.03-3355-5090
郵便振替口座：00130－2－609313

日本骨髄バンク NEWS ニュース

ドナー登録5万人突破、ありがとうございます

骨髄バンクには今5万人の善意が

今年5月末現在、ドナー登録者の数が50,000人となりました。登録を開始して2年半足らずでここまでになりました。この数は、登録者の中でもその後50歳の制限を超えるなどして、取り消された方たちを差し引いた登録者の実数です。白血病や再生不良性貧血などで苦しんでおられる患者さんに、ご自分の骨髄を提供しようという善意の方々が5万人になりました。

目標は10万人の登録

5万人になりましたが、もっともっとドナー登録者数を増やしていく必要があります。日本骨髄バンクでは、10万人のドナー登録をとりあえずの目標にしています。10万人いれば、骨髄移植の必要な90%の患者さんに骨髄提供者を確保できると試算されているからです。骨髄バンクを機能させて行くには、まだまだ多くの善意を募って行かなければなりません。

150人の患者さんが移植しました

すでに骨髄バンクを通した、まったく血縁関係のない骨髄移植が、昨年1月から今年6月上旬までに150例が行われています。つまり150人の方が骨髄を提供されました。このまま順調に進めば、今年は月間10数人平均のペースで骨髄バンクによる移植が実施されることになります。移植を待っている患者さんのため、一人でも多くの移植が行えるよう、骨髄バンクのスタッフは全力を注いでいます。

私たちも骨髄バンクのサポーターです

うつみ宮土理さん(タレント・作家)

知り合いに奥様が白血病になった方がいます。とても暗い表情でした。当然です。でも今では以前のように明るく毎日を過ごしていらっしゃいます。実はお兄さんから骨髄をもらい、移植して奥様は元気になられました。白血病が治ったんです。

骨髄移植で治るなら、すべての患者さんにそうしてあげたい。ドナーのみなさんは、そんな気持ちで登録なさったのだと思います。ドナーの皆さんの骨髄は、人のいのちを救うことのできる大変素晴らしいプレゼントです。骨髄バンクがもっともっと大きくなって、患者さんたちに素晴らしい贈り物がたくさんできるようにして行かなければと思います。

刀根麻理子さん(歌手)

次から次へと現れる魅力的な作品や、思考の能動性を奪う番組の数々。平和すぎるこの国で、私たちはいつしか人の痛みを理解しない国民性を築いてしまったらしい。でも半世紀近く前までは、信じられないけどこの国も、確かに戦争をしていた。そして戦争の恐怖の中、尊い生命が失われていくことに多くの日本人は嘆き悲しんだにちがいない。今この豊かさの中で、私たちの歴史に思いを馳せたとき、人の生命は財産だなぁと感じる。骨髄バンク運動を通して改めてこんなことを痛感する今日このごろだ。

生きたいと願う人たちに自分の人生のたった数日と、少しの骨髄液を提供するだけで、その人を取り巻く微笑みの輪が広がるのなら、こんなステキなお手伝いはない。

10万人の目標にはまだ届かないけれど、着実に増えているドナー希望者の輪。ガンバローよね、ちょっと痛いらしいけどサ。

東ちづるさん(女優)

私の大切な人、愛している人が死に直面しているとしたら…。私はそう考えてドナー登録をし、骨髄バンクのボランティア活動をはじめました。

現在、優秀なお医者様、研究を重ねた薬、日進月歩の医療器具、設備と、まさに準備万端の段階で人の善意だけが足りないという、誠に残念で悔しい状況です。

人が人を救う。こんなに素晴らしいことがあるでしょうか。あなたの大切な人、愛している人が死に…と考えてみてください。

骨髄提供ドキュメント　あるドナーの場合…

仕事に忙しい毎日の湯澤さんにとって、骨髄提供のための入院はある意味で休養、２冊の本を持って入院したそうです

汗ばむ陽気のある春の日、この日も骨髄バンクを通じての骨髄移植が行われていました。骨髄採取があったのは関東地方の骨髄バンク採取施設に指定されている病院です。

ドナーとなった方はある保険会社に勤務する湯澤純子さん(38歳)です。採取日の２日前に入院し、採取に臨んでいろいろな健康状態をチェックする検査が行われました。

「検査以外にすることがないので昨日はぐっすりと久しぶりに眠りました」

採取当日の朝８時半頃、お母さんに見送られて手術室の中へ

採取の前日には腎機能検査、これは全身麻酔のためには欠かせない検査です。

「健康には絶対の自信がありますから大丈夫です」とご本人がおっしゃる通り、結果はもちろんすべてがＯＫでした。採取の前夜８時近くになってコーディネーターがお花を持ってお見舞いしました。翌日は立ち会えないため、勤務後に湯澤さんを激励に訪れたものです。コーディネーターの気配りです。

「別にどうということもありません」と前日の心境も実に淡々としています。入院した病室は４人部屋、その中のお一人は白血病の患者さんで翌月には骨髄バンクによる移植が予定され、湯澤さんがドナーと知って「ありがたくて足を向けて寝られないわ」と語ったそうですが、その方は湯澤さんの向かい側、結局は足を向けざるを得ない位置関係でした。

手術室では、麻酔科医１名・採取医３名・助手１名・看護婦１名の６名のスタッフによって骨髄採取が行われました

「昨日寝過ぎたのか、あまり眠れませんでした」という湯澤さん。淡々としていたにも関わらず「やはり緊張していたのかも知れません」とはご本人の弁。湯澤さんは独身、娘の骨髄採取というので早朝からお母さんが病室にやってきました。

「言い出したら私のいうことは聞きませんからね。でもいつ自分が骨髄をもらう立場になるかも知れないからとも言ってました」と語るお母さん。お父さんは「お前でお役に立てるなら」と骨髄提供に同意してくれたそうです。

移植される患者のいる病院から医師が来ていることが確認され、麻酔が施されうつ伏せにされて、午前９時から採取が開始されました。腸骨と呼ばれる骨盤を形成する腰骨に、骨髄穿刺針という特別な針を刺して注射器で吸引して採取されます。

採取の１週間前と２週間前にそれぞれ400cc、合計800cc採血した自己血を輸血しながら行われました

ドナー登録をしたのは２年前、その半年後に依頼があり二次検査をしました。その後は連絡もなく一体どうなっているのだろうと思っていた頃、提供の半年ほど前になって適合する患者さんがおり、提供の意志に変わりがないかというアンケートが送られてきました。

「あ、来ちゃった」というのがその時の正直な気持ち。それからコーディネートが始まり、三次検査やご家族の同意へと進みましたが、テレビで「麻酔」というドラマが放送されており、麻酔については特に詳しくコーディネーターに説明してもらったそうです。採取日の決定には「私のわがままを通してもらった」そうで、湯澤さんの仕事の予定と移植病院の態勢など、いろいろ関係者のご苦労があったようです。

まだ湯澤さんの体温の温もりが残っている採取された骨髄液は900cc、専用の骨髄運搬用バッグに入れられます

湯澤さんの骨髄は移植の行われる病院から来た医師によって運ばれ、その日のうちに患者さんに移植されました

採取は1時間20分ほどで終了しました。湯澤さんは一旦隣のICU(集中治療室)に移って麻酔から回復するのを待ち、1時間半ほどして病室に戻りました。

移植病院の医師は骨髄を携えて、直ちに羽田空港へと向かいました。湯澤さんが患者さんについて知らされていたのは成人の男性ということだけ、空港へ向かったということは、かなり遠い地域の方に違いありません。

ほとんど痛みも残らず採取の翌々日に退院、4泊5日の入院でした。ところで湯澤さんの会社にはドナー休暇制度があります。湯澤さんが最初の適用例で、会社ではかなりドタバタしたようです。こうしたドナー休暇制度が普及して、提供しやすい環境が整備されることを願いたいと思います。

骨髄提供体験手記

一生の思い出

桐野江直樹(28歳・カメラマン)

献血の鬼である私は骨髄バンクができたのを知り、こりゃイカンと登録に行った。しばらくして二次検査、忘れかけた頃に突然知らない人からの電話、よくよく聞いてみるとコーディネーターで何と適合する患者がいるという。ビックリ仰天、決意の上のドナー登録だがいざ連絡があるとドキドキしてしまう私であった。何回か忘れかける頃になると連絡があった。《こんなにゆっくりで患者さんは大丈夫かな》と感じた。MLC検査の結果、骨髄提供が決まった。健康診断や家族同席で意志の確認、自己血採取と病院通いが始まる。余談だがMLC以降の病院の対応には驚いた。居並ぶ人たちを横目にすべてが優先、待ち時間がゼロ。庶民が病院でVIP気分を味わうには骨髄提供が一番だと妙なことを考えた。

とうとう入院当日、いきなり寝坊して30分の遅刻。ペコペコしながら病室に案内してもらいパジャマに着替えてゴロゴロしていると、妙な違和感にとらわれた。健康と太鼓判を押された若いモンが昼間から病院のベッドにいるのは変だと気づいた。先生が入れ替わり病室に来て、夜には麻酔の先生からの説明、ここまで来ると実感がわいてきた。晩ご飯は抜き。お腹が鳴りっぱなしで寝つけない。ご飯が食べたい、酒が呑みたい、そのうちに恐怖心が顔をもたげ《麻酔事故第二号になったらどうしよう》《保険金の受取人を決めた遺言を書かなきゃ》わけの分からないことを考えていると、いつの間にか寝てしまった。

採取の朝。いつもの寝ぼすけが6時に起きた。緊張している。やがて看護婦さんがストレッチャーを押して笑顔でお出迎え。タイヤのついたまな板と板前さんに見えた。まな板の上に横になり、手術室へと運ばれる。マスクを付けられガスが来たのを感じ、いちにのさんで目を開けると、そこは回復室、すべてが終わっていた。《あっけない》と思ううちに睡魔に襲われた。日頃の疲れか麻酔に弱いのか朝方まで寝たり起きたり、時間の感覚がまるで無い。翌朝、車椅子で病室へ帰った。意識ははっきりしているが麻酔の抜けがいまいちで、腰が痛かった。頭の中は骨髄提供の感動ではなく、情けないことに食事と煙草のことばかり。食事を5分間で平らげ喫煙室へ。腰が痛くて壁を伝い必死にはうようにたどり着き、やっと一服。食事も煙草も最高だった。午後、喫茶室で見舞いの友人に「痛い痛い」と騒ぐと「どこかの誰かが喜んでいるんだ、感動的じゃないか」と言われ「そうだったね、どうでもいいけど痛い」と自分勝手なことこの上ない。MLC検査以降は患者さんのことなどすっかり忘れていた。更に一泊して看護婦さんから「退院したら飲んで下さい」「何？」「痛み止めです」「昨日も痛かったのに」「くれと言わなかったでしょ」《薬がでていたなら枕元に置いといてくれてもいいのに》心の中で毒づいた。痛みもかなり残っていたが、すごすごとバスに乗って帰途についた。傷跡は青あざ状態で一ヶ月ほど弱く痛み、やらなきゃ良かったと、ひたすら自分のことばかりを考える我ながら嫌な奴であった。

しかし、あることに気付いて意識がコロッと変わった。骨髄移植で患者の血液は提供者と同じに成るというが《自分の子供より血が同じなのだ》《患者は自分の子供みたいなものじゃないのかな》と考え《骨髄提供で命を生み出す、つまりは出産で今回は難産だった》恨み辛みが吹き飛んだ。ここまでに二ヶ月かかった。自分の小ささに呆れるばかりである。

つい最近、偶然に非血縁の骨髄移植をした患者さんと会う機会があった。無菌室を出たばかりで辛そうだったが、話をするうちに「ありがとう」といわれ、涙が出かけた。

あの一言は、一生忘れられない思い出になるだろう。

順調に非血縁者間の移植が実施されています

ー骨髄提供者アンケート調査報告ー

昨年1月日本骨髄バンクによる骨髄移植第1例を行って以来、移植患者数は次第に増え、本年2月には100名を超え、6月には150名に達しました。このうち、40名以上の退院者を含め110名ほどの方々が希望を持って過ごされています。米国の骨髄バンクNMDPでも、1987年12月に移植第1例を行い、1989年2月に100例目を行っていますので初期の移植実施速度は、日米ほとんど同じといえます。

①非血縁者間骨髄移植実施例数

年・月	月間	累計
平成5年1月	1	1
2月	2	3
3月	5	8
4月	1	9
5月	9	18
6月	6	24
7月	10	34
8月	4	38
9月	12	50
10月	12	62
11月	17	79
12月	7	86
平成6年1月	7	93
2月	13	106
3月	17	123
4月	11	134
5月	12	146

骨髄を提供してくださった方々がその後どのように過ごされているか、提供にどのような感想をお持ちかということを調査しています。今年3月までに提供されたドナーのみなさんから頂いたアンケートの結果をご紹介します。

●提供への不安はありましたか。
全くなかった　46%
少しあった　52%
非常にあった　2%

●麻酔への不安はありましたか。
全くなかった　44%
少しあった　52%
非常にあった　4%

●麻酔に関連した苦痛はどうでしたか。
軽かった　70%
普通　26%
重かった　4%

●痛みの持続は何日でしたか。
1～3日　27%
4～7日　24%
1～2週間　24%
2週間以上　13%
1月以上　2%
全くなかった　2%
無回答　8%

●日常生活がもとに戻った日数は。
1～3日　34%
4～7日　44%
1～2週間　9%
2週間以上　8%
1月以上　1%
無回答　4%

●入院日数は。
3日　8%
4日　42%
5日　30%
6日　14%
7日以上　6%

●提供後に健康の不安はありましたか。
なかった　73%
あった　27%

●骨髄提供に満足していますか。
満足している　84%
特に何も思わない16%

●もう一度提供しますか。
提供する　79%
提供しない　3%
わからない　18%

●骨髄提供を人に薦めますか。
強く思う　52%
思う　37%
思わない　10%
無回答　1%

84%の方が不安や苦痛があっても提供してよかったと思い、ほぼ同数の方がもう一度提供を希望しています。少数の方が提供を望まず、人にも薦めないと答えていますが、100%の安全を保障できず、かつ体の負担が非常に大きいので、人には積極的に薦めることはできない。あくまでも自発的意志によるものである、と考えているのが理由でした。しかし、もう一度このような機会があったら必ず提供するだろう、とつけ加えて答えている方もいらっしゃいました。

ドナーの提供の感想をご紹介します。

●麻酔の副作用がほとんどありませんでした。ノドが少し痛くて声が出づらかった以外は本当にふだんと変わりありませんでした。●麻酔が覚めていくあいだは、もうろうとしていて何が何だかわからない状態でしたが、意識がしっかり戻ってからは熱も出ず、吐き気や頭痛もなく痛みも耐えられないという　痛みでなかったので安心しました。●尿道チューブがとても痛くつらかった。抜かれたあとの排尿がしばらく痛かった。●刺し傷の跡の内出血が出現し数週間後になって徐々に消えかけている。●採取中は固定されたうつ伏せの姿勢だったせいか、筋肉痛や腰痛が数日あった。●痛みが一週間続いたときはこのままとれないのかもしれないと思ったが、一月後の現在は痛みがなくほっとしている。●提供後の痛みやだるさが日を追うごとにみるみる回復して行くのが感じられた。

提供者の感想について、皆さんはどのような印象を持ちましたでしょうか。うわさに聞いていたよりは大したことないんだと思われた方も、やっぱりすごく大変だと思われた方もいらっしゃるでしょう。

安全な骨髄提供のために関係者はさらに努力をしております。

二次検査はお済みですか

骨髄バンクに登録し、患者さんと適合して実際の骨髄提供までには、二次・三次の検査など、いくつかの段階を経て行かなければなりません。登録して頂いた5万人のドナーのうち、7割弱の方に二次検査を受けるよう依頼が出されています。しかし、依頼されたドナーの7割程度しかまだ二次検査を済まされていません。二次検査依頼のきている方は、登録している骨髄データセンターにご連絡の上、早めに二次検査をお済ませください。

移転の際には骨髄バンクにも連絡を

二次検査の依頼や、さらに進んでコーディネートを開始するために、登録ドナーにご連絡しようとしてもとれない場合が多々あります。引越や結婚などで、住まいを替わられた方は、ぜひ登録している骨髄データセンターに移転のご連絡をください。引越の案内状を出すリストの中に、骨髄バンクも入れておいてください。※ご連絡がとれなくなったり、二次検査依頼を4回出したあと、検査に応じていただけない場合は登録を取消させていただきます。

日本骨髄バンクの現状

わが国の公的骨髄バンクが発足して2年半が経過しようとしています。これまでの簡単な足どりは、次のようなものです。

- 平成３年12月　骨髄移植推進財団発足
- 平成４年１月　ドナー登録開始
- 平成４年６月　患者登録開始
- 平成４年９月　コーディネート開始
- 平成５年１月　非血縁者間第１号移植実施

都道府県別登録者数(1994.5.31現在)

	提供希望者	患　者		提供希望者	患　者
北海道	3,392	73	京　都	1,902	53
青　森	461	6	大　阪	3,934	159
岩　手	325	10	兵　庫	1,655	114
宮　城	992	26	奈　良	616	40
秋　田	413	11	和歌山	289	18
山　形	287	22	鳥　取	202	10
福　島	740	35	島　根	344	19
茨　城	693	45	岡　山	829	31
栃　木	658	34	広　島	1,537	35
群　馬	569	30	山　口	512	39
埼　玉	1,035	103	徳　島	261	10
千　葉	1,291	92	香　川	305	14
東　京	8,756	161	愛　媛	394	30
神奈川	2,734	133	高　知	268	7
山　梨	209	19	福　岡	2,187	61
長　野	738	31	佐　賀	305	20
新　潟	1,134	30	長　崎	490	21
富　山	469	23	熊　本	541	24
石　川	458	22	大　分	386	12
福　井	275	15	宮　崎	308	20
岐　阜	820	26	鹿児島	665	24
静　岡	1,501	54	沖　縄	328	4
愛　知	3,215	140	海　外		17
三　重	780	25			
滋　賀	646	22	合　計	50,849	1,970

ドナー登録推移表

年齢別患者登録状況(1994.5.31現在)

患者年齢	0～5歳	6～15歳	16～25歳	26～35歳	36歳以上	合計
人数	200	436	551	411	372	1,970

疾患別患者登録状況(1994.5.31現在)

疾　患　名	人数
重症再生不良性貧血	303
慢性白血病	532
急性白血病	883
骨髄異形成症候群	175
先天性の疾患	72
その他	5
合計	1,970

HLA検索適合状況(1994.6.9現在)

	人数
登録患者累計数	1,990
検索依頼中の患者数	997
二次検査適合患者数	1,177
一次検査適合ドナー数	34,999
二次検査済ドナー数	24,661
二次検査適合ドナー数	3,808

日本骨髄バンクの登録状況は、今年５月末日現在で患者さんが累計で1,970名です。この数は、これまでに登録した患者の総数で、既に移植を終えられた患者さんを始め、残念ながら死亡された患者さんも含まれています。一方、一次検査済のドナー希望者数は50,894名で、この数は登録後に年齢制限の50歳を超過したり、検査登録後に取り消された方を除いた有効登録者数です。

患者とドナーの都道府県別の登録状況は表１の通りですが、このうちドナー数は各地の骨髄データセンター別の登録数で、必ずしもドナーの居住地を表してはいません。

これまでのドナー登録の推移はグラフに示した通りですが、ハガキで登録の申込をした方のうち約４割の方が検査をすまされていないのが現状です。登録者数の推移は一昨年、一時は低迷していましたが、去年秋から大きく飛躍して伸びています。しかし、最近になってやや登録が落ちているのが気がかりです。

登録患者の年齢と疾患別は表２と３の通りですが、こうした患者さんがどの程度まで骨髄バンクによって登録ドナーと適合しているかは、表４をご覧下さい。６月９日現在の患者累計数1,990名に対して、これまでに1,177名の患者に二次検査済のHLA適合ドナー候補がいます。これをドナー側からでみてみると3,808名の二次適合者がおり、適合ドナーのいる患者１名に平均３人以上のドナー候補が見つかっていることになります。

また、ドナー登録者の７割弱に一次適合の患者がおり、二次検査の依頼が出され、全登録ドナーの半分近くが二次検査をすませています。その中で3,808名の適合者がいるというのは、全登録ドナーの7.5%にあたります。

骨髄バンク財政状況報告

骨髄バンク事業は、日本赤十字社の行うドナーの登録受付とＨＬＡ検査及びそのデータ管理の協力を得て、(財)骨髄移植推進財団が主体となって行う公的事業です。骨髄移植推進財団の財政がどのような状況にあるのかを、昨年度の決算と今年度の予算をお知らせします。(単位：万円)

		平成５年度決算		平成６年度予算	
	科　目	金　額	%	金　額	%
収入	寄付金	34,849	54.3	37,540	47.2
	患者負担金	10,416	16.2	24,080	30.3
	国庫補助金など	5,381	8.4	12,924	16.3
	基本財産利息	704	1.1	902	1.1
	繰越金	12,519	19.5	4,000	5.0
	雑収入	324	0.5	51	0.1
	合計	64,193	100	79,497	100
支出	普及広報費	10,677	16.6	14,135	17.8
	コーディネート費	8,021	12.5	13,188	16.6
	調査・研究費	469	0.7	2,685	3.4
	検査・保険料	9,347	14.6	14,680	18.5
	管理費	3,464	5.4	3,009	3.8
	基本財産繰入	24,000	37.4	27,800	35.0
	繰越金(予備費)	8,215	12.8	4,000	5.0
	合　計	64,193	100	79,497	100

一見しておわかりのように、骨髄移植推進財団の財政は収入の大半が一般からの寄付金と、登録されている患者さんの負担金によって支えられているのが現状です。今後は政府による補助金の大幅な増額を望んでいかなければなりませんが、当面の骨髄バンク事業の円滑な運営には寄付金の収入に頼らざるを得ない状況です。

寄付金は民間企業や団体が主たるものですが、個人の皆さんからの善意もたくさん寄せられています。財団では恒常的に骨髄バンク事業を支援して頂けるように賛助会員を募って年会費(団体10万円・個人１万円)を納めて頂いております。

この他、今年度より一般からの小口寄付を募るサポーター制度も始めました。

骨髄バンク・サポーター募集中!

骨髄バンク事業の運営にあなたの善意をお寄せ下さい。

骨髄バンク・サポーター

……１口ー1,000円

１口以上でお申込下さい。皆様の善意が骨髄バンク事業に生かされ、一人でも多くの患者さんが骨髄移植によって救われるようにして行きたいと考えています。

サポーター及び賛助会員のお問い合わせはフリーダイヤル(0120-377-465)でどうぞ。

骨髄バンクに寄せられたお便りより

骨髄バンクには様々な方からのご意見や感想が寄せられています。そのいくつかをQ&Aの形で紹介し、現在骨髄バンクが置かれている現状と、私たちスタッフの見解をご披露したいと思います。

Q 骨髄バンクでHLAの適合するドナーが３人４人といることがわかり、コーディネートが進められましたが、その全員に最終段階で提供を断られました。その間に私たちは何十万円というお金を使い家の中は火の車です。患者であることの苦しみに加えて、経済的にも大変なのをご理解下さい。(登録患者の家族より)

A **コーディネートが開始されると、検査料などの費用は患者さんの負担になります。しかし家族の同意が得られないなどの理由で、最終的に骨髄提供を拒否されるドナー候補も多くいます。こうした場合は患者さんの負担する費用が無駄になるばかりでなく、他のコーディネートの遅延などの影響もあります。提供の意志の変更はいつでも可能ですが、こうした事情を考えて、提供できないときは早期にその意志を明らかにして頂ければと思います。**

Q ドナー登録から１年半後、二次検査の依頼が来て検査に行きましたが、その後は何の連絡もありません。私は適合すればすぐにでも提供したいと思っていますが、何のお手伝いもできないことに、物足りなさを感じています。骨髄バンクのためにお役に立ちたいと思うのですが、良い方法をお知らせ下さい。

A **骨髄バンク事業の推進にはドナー登録者の拡大が最も重要ですが、そのほかにも資金面でのご援助や、広報活動などでのボランティア運動も重要な部分です。全国各地のボランティア団体が骨髄バンクを支援する活動を行っています。財団ではそうしたボランティア団体のご紹介もしております。**

編集後記

●ドナー登録が５万人を超え感無量です。日本人はボランティア精神がないなんてウソ。貴重な時間を割き、痛い経験をしてもよいという人が５万人もいます。●コーディネートが急増しています。一般公募のコーディネーター養成研修が始まりました。迅速できめ細かなコーディネートのためです。●７月にコーディネートマニュアルが改定されます。主な改定点は欧米のバンク同様に三次検査をDNAタイピングに変更します。●骨髄採取前後の状況を把握し、ドナーの負担を軽減するためのフォローアップ体制を充実させる作業を進めています。安心できる骨髄提供の環境を作って行きます。●ドナーを得ながら移植待機の患者さんが増えています。今後は医療体制の整備を重要な問題です。●７月は献血推進月間、骨髄移植を始め輸血を必要とする患者さんがたくさんいます。健康な皆さんの（成分）献血への御協力をお願いします。(Y&N)

今回より日本赤十字社骨髄データセンターのご協力により、全ドナー登録者に骨髄バンクニュースをお届けできることになりました。